HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報，特別号「ほのか」
Issue Date	1940
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77648
Type	article
File Information	A018_02_03all_Part51.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

卷頭言

今年卒業する諸君は昭和十二年に入學したのであつて、其年の四月に入學してから二三ケ月の中に東亞の歴史を劃する事變が勃發し、其後すつと緊張し切つた時變下に諸君は諸君の三ケ年のカレツヂライフを經過して來た譯である。諸君は平時のカレツヂライフに見られる樣な色々のなごやかな憶ひ出や奔放な感激の語り草は、餘り經驗しなかつたであらうが、諸君は此後の東亞の歴史を色づける興亞の精神をカレツヂライフの最初から訓練されて來た謂はゞ第一回の卒業生である。其意味に於いて諸君が學園を出て今や世に出でんとする事に大きな歴史的意義を見出すのである。興亞の聖業はこれから尙ほ幾年かゝるか分らないけれども一億の民一心に、皆其立場々々に於いて此聖業に從事するのである。興亞の精神を訓練された諸君が、國内國外の戰線に新らたに參加する事はるであらう。

歴史の永い間、對立や抗爭が絶えなかつた東亞の空には興亞の黎明の中に新秩序が展開しやうとして居る。自然は今や春の黎明、東亞は今や新秩序の黎明、而して諸君は早春の陽光を身にあびながら、興亞の鐘を聞きながら、今や實社會に門出し樣として居る。正に人生の黎明である。あらゆるものが、今發芽しつゝある。野にも山にも私等の學園にも。

（芒亭）

來を暗示して居る。庭は雪と霜に荒れ蕾はもう幾分色づいて來て居る。滿星芽がはち切れる樣な生命力を示して居きな栃の木の梢にも新芽が萠え出て居